



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

〔発信〕松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

http://www.matsumoto-u.ac.jp

2025年6月11日

報道関係各位

平成7年7月豪雨災害（姫川災害） アウトキャンパススタディ

～発災30年の節目に被災地を歩く～

日頃より、本学の教育活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

平成7年（1995）年7月の豪雨で姫川流域（小谷村・白馬村）に大きな被害が出てから30年になります。そこで、6月19日（木）に本学で防災を学ぶ学生が現地を訪れ、当時の被災箇所やその後の砂防対策などについて学びます。姫川流域は歴史的に多くの土砂災害に見舞われており、今回は平成7年豪雨災害のほか、稗田山崩れ（1911年）や蒲原沢土石流災害（1996年）などの現場や砂防対策についても視察します。

なお、今回のアウトキャンパススタディは、国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所様のご協力を得て実施いたします。貴社の報道を通じて、地域のみなさまに本学の活動を広くご紹介いただきたく存じます。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

【実施日】2025年6月19日（木）

【参加者】「災害調査論」「専門ゼミ」を履修している観光ホスピタリティ学科の学生 約10人

【行程】

- ・天候や道路状況によって変更する場合がありますのでご承知おきください。
- ・当日悪天が予想される場合は、前日6月18日（水）19時の段階で実施の可否を判断します。予備日は6月27日（金）です。
- ・各視察箇所の詳細については、次ページをご覧ください。

8:30	松本大学 発	
9:50	道の駅白馬	※松本砂防事務所の方々と合流
10:15	源太郎砂防堰堤	【はじめに砂防ありきの碑】
11:10	浦川スーパー暗渠砂防堰堤	【1911年稗田山崩れ】
11:45	道の駅おたり	
12:00	蒲原沢土石流災害慰霊碑	【1996年蒲原沢土石流災害】※学生による献花
12:20	大所中継所（姫川監督官詰所）	【平成7年豪雨災害】※昼食
13:35	大所中継所（姫川監督官詰所）発	
14:20	道の駅白馬	
16:00	松本大学 着	

※取材をご希望の方は、事前に下記までご連絡をお願いします。詳細をお知らせします。



今回視察する箇所の詳細は下記の通りです。

① 源太郎砂防堰堤と「はじめに砂防ありき」の碑（白馬村）

姫川は、平均河床勾配 1/80 という極めて急勾配の河川であることに加え、姫川に沿ってほぼ南北に走る糸魚川～静岡構造線という脆弱で不安定な地質構造から、土砂災害が繰り返し発生しています。明治 24 (1891) 年や明治 25 (1892) 年の松川（ガラガラ沢の崩壊）と平川の氾濫により、大きな被害を受けた北城村（現白馬村）は、明治 26 年（1893）長野県に砂防工事の施工をもとめて嘆願書を提出しました。昭和 7 (1932) 年に長野県が着手した「源太郎砂防堰堤」の工事が、姫川の砂防工事の始まりです。その後の砂防工事により、現在の白馬村に発展したことから、平成 3 (1991) 年に「源太郎砂防堰堤」のそばに「はじめに砂防ありき」の碑が建立されました。

② 稗田山崩れ（小谷村）

明治 44 (1911) 年、小谷村の稗田山が大崩壊を起こしました。崩壊した土砂は土石流（岩屑なだれ）となって姫川の支川の浦川を流下し、姫川との合流点に天然ダム（河道閉塞）を形成しました。浦川下流では 100m 程度の土砂埋積があり、石坂集落の 3 戸、長瀨 1 戸は埋没し、死者・行方不明は 23 人にも達しました。翌年の明治 45 (1912) 年 4 月 26 日と 5 月 4 日にも崩壊が発生し、7 月 21～22 日の豪雨により天然ダムが決壊し、下流の石坂や来馬の集落は壊滅的な被害を受けました。静岡県のおおや崩れ、富山県のとんびやま崩れとともに「日本三大崩れ」の一つとされています。幸田文の随筆『崩れ』にも、稗田山崩れを訪れた際の記述があります。

③ 蒲原沢土石流災害（小谷村）

平成 8 (1996) 年 12 月 6 日、小谷村と新潟県糸魚川市境の蒲原沢で、融雪により平成 7 年 7 月豪雨とほぼ同じ地点の崩壊地が拡大し、姫川本川に達する土石流が発生しました。崩壊規模は長さ 120m、幅 60m、最大深さ 20m に及び崩壊土砂量は約 39,000 m³（うち土石流となって流下した土砂量約 31,000 m³）でした。前年の平成 7 年 7 月豪雨による土砂災害の復旧工事にあたっていた作業従事者 14 人が犠牲となりました。この災害は、砂防工事施工に伴う安全対策に対して大きな影響を与えた災害でした。

④ 平成 7 年 7 月豪雨（姫川水害）

平成 7 (1995) 年 7 月 11 日から 12 日にかけて、梅雨前線による豪雨が長野県北部から新潟県西部を襲い、姫川流域の各地に、地すべり・崩壊・土石流などによる土砂災害を多数発生させました。11 日 14 時頃から強い豪雨となり、18 時前後にピークに達し、記録的な数値となりました。とくに、光明沢では上流部の山腹崩壊により発生した土石流が砂防堰堤を乗り越えて流下し、国道 148 号まで及び、JR 大糸線を横切って本川の姫川まで達しました。小谷村を含む姫川流域で全壊 41 棟、半壊 21 棟の被害が出ましたが、死者はありませんでした。

今回は、当時被害が大きかった小谷村平岩地区に近い大所中継所で当時の被災状況の写真や被災体験者の話をまとめた資料を使った説明を受けたのち、現在の復興の状況を視察します。

参考資料：国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所「姫川流域 大規模土砂災害史」

https://www.hrr.mlit.go.jp/matsumoto/sub_dosyasaigaishi.html